

平成31年度 施設としての自己評価

ミキネ おひさまの森保育園

平素はミキネおひさまの森保育園の運営にご理解ご協力いただきまして、ありがとうございます。
以下の通り、園の自己評価を付けました。今後一層より良い園になるよう職員一同努力してまいります。

【1】どちらかというのできていなかった 【2】どちらかというのできていた 【3】ほぼできていた 【4】よくできていた

| 年目標 | 自己評価 | 内容 |
|--|------|---|
| ●保育内容(今年度の重点) | | |
| 絵本の選書 | 2 | 言葉の獲得、情緒の安定、豊かな感性を助長できる絵本の役割を再認識し、園の絵本やその与え方を考える機会となった。設置の仕方にまだ課題が残ったため、引き続き深めていきたい。 |
| 子どもの発達についてを明確にする中で、それを助長する絵本、今の子どもにあった絵本やその提供の仕方を学び考えた | | |
| 言葉の発達を助長する声かけの適切性 | 2 | 個々の発達や状況が違う中、一人ひとりに合わせた声かけ、また発達をサポートできる声かけになっているのかを振り返った。 |
| 言葉の獲得や使い方の発達を知り、今の子どもたちはどんな発達状況なのかをカンファレンスした | | |
| ●職員研修 | | |
| 体罰の知識と関わりの適切性 | 3 | この時期の保育職員とのふれあい一つで愛着の在り方が深まったり、自己肯定感を大きく左右することを学び、子どもとの関わり方、「愛されている」と感じられる関わりについて検討会を行った。また「体罰」についての研修を設け、本当に子どもに与えるべき関わり、与えるべきではない関わりを明確にした。 |
| 体罰とは何か、適切な関わりとは何かを知識・実地での対応を振り返り明確にした | | |
| 排泄援助 | 3 | 排泄の機能原理や、発達を見ながら、個々の排泄の状況を家庭に聞き取りしながら明確にしていった。今後はこの学びを生かしながら、トイレトレーニングに生かしていきたい。 |
| 健康のバロメーターとして排泄の状況を把握する | | |
| 散歩中の事故対応 | 3 | 子どもの発達に散歩の価値は大きくある中、散歩をより安全でよい時間にするために話し合いを設けた。散歩中の危険箇所を明確にすり合わせ、日々の散歩の指針を再度考えた。 |
| 散歩中の危険性やその対応を検討した | | |

【総評】

今年度は子どもの姿からじっくり遊びることができているかを捉えることを大きな課題としました。0歳児の遊び(保育者との関わり)、1歳児の遊び(好きを見つけて遊び切る)、2歳児の遊び(遊びの重なる友だちと関わる楽しさを味わう)ことを発達毎にテーマとしながら、環境の構成、保育者の援助を検討していききました。次年度、より個々の発達に即した関わりを職員で検討し、今年度の中で課題に残った「よりよい声かけ」「絵本の選定」と引き続きテーマとして深めていきたいと考えています。一年間ありがとうございました。

令和2年4月1日
園長 村上奈那